

名取川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

- 東北地方の社会経済基盤の中心をなす仙台市中心部を貫流。
- 中・下流部には東北新幹線、東北縦貫自動車道等の基幹交通網が整備されるなど交通の要衝。
- 仙台市中心部でアユ釣りができるなど、良好な河川環境。

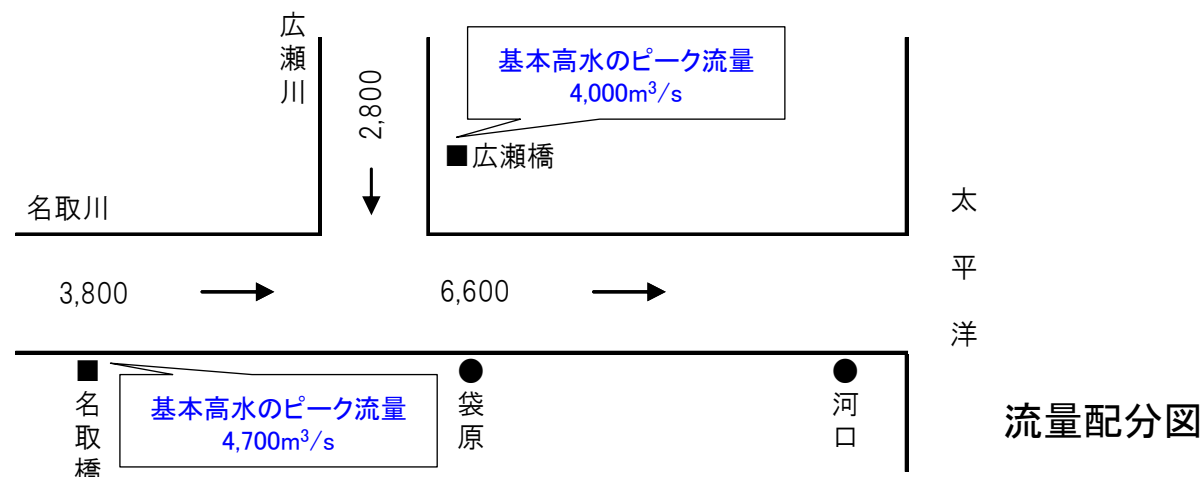
流域及び氾濫域の諸元

流域面積 : 939.0km²
 幹川流路延長 : 55.0km
 想定氾濫区域内人口 : 約22万人



災害の発生防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量確率(1/150相当)による検証、既往洪水からの検証等により、基本方針においても既定計画の基本高水ピーク流量4,700m³/s(名取橋)、4,000m³/s(広瀬橋)と設定。



流量配分図



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存及び新規の洪水調節施設により対応。
- 内水被害が著しい地域においては、関係機関と連携・調整を図りつつ、必要に応じて内水被害の軽減対策を実施。
- 今後30年間に99%の高い確率で発生が予想される宮城県沖地震に対し、地震・津波対策として堤防強化を図り、河口部は高潮対策を実施。
- 広瀬川については、広瀬川管理計画に基づき樹木伐採や中州・寄州除去による必要な対策を実施。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 動植物の保護・漁業など9項目の検討により、維持流量を設定し、水利流量、流入量を含めて正常流量を設定。
 名取川名取橋地点 : 2.5m³/s (9~10月)、2.0m³/s (11~8月)
 広瀬川広瀬橋地点 : 2.5m³/s (9~10月)、2.0m³/s (11~8月)
 ※9~10月はアユ産卵等に必要な流量、11~8月はウグイ産卵等に
 必要な流量

河川環境の整備と保全

- 中流部の広瀬川では、多様な生物の生息場となるワンドや瀬・淵、ヤナギ林や抽水植物群落の保全。
- 典型的なラグーン(潟湖)で、多様な汽水魚、海水魚が生息し、ハマナスやアイアシなどの貴重な砂浜植物、抽水植物が分布する河口部左岸井土浦は、生物の生活史を支える環境を確保できるよう配慮。

